



やまなし

第 72 号 2009 年 10 月 29 日 (年 3 回発行)

巻頭言

認知症のある人にとっての「今」「ここで」

健康科学大学

守口恭子

A さんはいつもソファに座って遠くを見ています。話しかけると、「敵の戦隊が……。」とか「弾をよけて命は助かったんです。」など戦争の話になります。おやつは「戦争している人を思うと食べられません。」と断られます。A さんは脳梗塞もあって左上肢・手指はステージⅣですが、「この手は戦争でやられたんです。」と言うばかりであまり使おうとされません。A さんは今でも戦争中を生きておられるようです。私が A さんの隣に座って夕食に使う洗濯済みのおしぼりをたたみ、「すみませんが手伝ってくださいませんか。」と頼むと A さんは「たくさんあるね。」と広げるのを手伝ってくださいました。私が「有難うございました。」と言うと「どういたしまして。」と返事が返ってきました。

認知症のある人の記憶や見当識が低下していることはわかっていましたが、A さんの生きている時間が常に戦時中ではない、と私が気づいたのは最近のことです。私たちにとっては時間や場所はゆるぎなく存在していますが、認知症のある人はそれが揺れ動くらしく、時空を超えて行ったり来たりしているのかもしれない。ある時は戦時中で、不思議なことにある時は戦時中ではないのです。そんなことは気にならないのかもしれないし、A さんなりに折り合いをつけているのかもしれない。

そう仮定すると、A さんは作業をすることで「今、ここに」いられるということです。私たちと共有できる「今、ここに」いていただければ、ともに作業していることを確認できるし、手伝ったことに感謝できます。私たちが介入できるのは、「今」「ここで」だけです。誰かに認められたり感謝されたりするのも「今」「ここで」だけなのです。

もくじ

1p	巻頭言
3p	精神科だより
4p	活動紹介
5p	身障だより
7p	第 4 回山梨県作業療法学会に向けて
8p	山梨県作業療法士会法人化に向けて
9p	老健だより
11p	BOOK WATCHING
12p	理事会だより
14p	広告
16p	各種申請書変更のお知らせ ・ 編集後記

認知症のある人が作業をすることの意味はここにあるのではないのでしょうか。作業をすることは他者と共有できるまぎれもない「現実」であり、「今に居る」ことではないか、と私は思います。作業療法士は、認知症のある人が一日の中でどんな作業をすればいいのか、作業をすることによってどんな「今」が作り出せるのか、その「今」にはどんな人がどのようにかかわればいいのか、を考えることが必要です。作業は認知症のある人が「今」を生きるための大事なてがかりなのではないのでしょうか。

マズローの人間の欲求の5段階を表わす三角形を思い出しても、基本的な欲求と安全である欲求を満たした上で、承認されること、愛されること、自己実現すること、と積み上がっています。作業療法の目標も同じで、認知症のある人の欲求も同じなのではないかと思えます。

作業療法士以外にも多くの人や職種が認知症のある人の作業活動についてかわる時代になりました。いろいろな目的に応じて作業が準備されているし、取り組まれています。

認知症ある人の作業療法って何だろう。と、いつも考えています。

＜YKB勉強会：Y=Yamanashi K=Katsubun B=Bobath＞	
内容	中枢神経系疾患の評価と治療について、ビデオケーススタディや実技練習等、また、毎年5月に開催される活動分析研究大会に向けた発表練習を行っています。
メンバー構成	県内10数施設のOT・PT・ST 計165名が参加(平成21年6月時点)し、12の小グループに分かれて活動しています。
日時	1回/1～2週 平日18:30～20:30
会場	石和温泉病院 春日居リハビリテーション病院 健康科学大学リハビリテーションクリニック 甲府城南病院 富士温泉病院 山梨赤十字病院 山梨リハビリテーション病院 竜王リハビリテーション病院 他
コメント	教えてもらう勉強会ではなく、参加者主体型のみんなで考える勉強会です。会員管理を行っていますので、参加を希望される方は事務局までご一報下さい。事務局:山梨リハビリテーション病院 作業療法課 佐尾健太郎

＜小児勉強会＞	
内容	発達障害領域の作業療法士・理学療法士・言語聴覚療法士を中心に、研修会参加者による伝達講習やビデオケーススタディやハンドリング練習などを行っています。
メンバー構成	石和共立病院・甲府共立診療所・県立あけぼの医療福祉センター・湯村温泉病院・山梨リハビリテーション病院・富士温泉病院・健康科学大学リハビリテーションクリニックの作業療法士・理学療法士・言語療法士十数名にて構成されています。
日時	1回/月(第2もしくは第3水曜日)
会場	甲府共立病院 健診センターまたはPT室
コメント	発達障害領域に携わっていない方でも関心があればどなたでも参加できます。日常の何気ない疑問をみんなと共有しながら、発展していきたいと思っています。また、県内の発達障害領域に携わるスタッフの横のつながりを大切にしていきたいと考えています。

申込締切	平成 21 年 10 月 22 日(木)必着
申込及び 問合せ先	山梨県作業療法士会 学術局企画研修部 松本 乃里子 石和共立病院 在宅リハ室 FAX:055-263-3136

身障だより

恵信甲府病院

内藤 和也

企画開始から1年が経ちました「身障だより」。4回目となります今回は、恵信甲府病院を紹介させていただきたいと思います。

まず、“甲府”病院といっても、場所がどこにあるのか知らない方も多いのではないのでしょうか？

場所は、国道20号線沿いにあります、ちゃんぽん屋さん、道向かいのカレー屋さん。そのカレー屋さんの奥に見える、青い看板の建物が、恵信甲府病院になります。



[施設全景]

当院は維持期療養型病院として、県内の長期入院が必要な方々の受け皿となるべく、平成11年に開院しました。施設は4階建て、150床を有し、2階には認知症専門病棟が置かれています。当初PTのみで始まったリハビリも、H14年に作業療法室が開設されました。リハビリスタッフは現在、PT7名、ST1名、アシスタント1名、OT5名の計14名で、入院患者様の生活の質向上に努めています。



OT1人あたりの受け持ちは15名前後です。患者様の処方の割合は、脳血管障害や神経疾患、関節リウマチなどです。あと、最近は廃用症候群で入院される方も増えており、短期間で効果を出すにはどのようにしたら良いか、日々考えながら業務を行っています。

また、当院に入院される方のほとんどが、急性期・回復期から自宅や施設と、いくつもの場所での生活を経ており、4～5施設目として入院される方が多いのも特徴です。平均年齢も70代と、高齢化の様相を呈しています。

継続して医療的措置が必要なため、施設入所や、今すぐの自宅復帰が困難な方たちへのリハビリとしては、患者様の状態を毎日詳細にチェックしながらになりますので、回復期ほど積極的なリハビリができるわけではありませんが、自宅へ帰る（施設入所）までの中間施設としての役割を果たせるよう努力しています。

入院期間も、1年以上の方が多いです。そんな長い入院生活の中で、少しでも多くの楽しみを見つけてもらおうと、折り紙や手工芸、園芸といった趣味的な作業療法を取り入れています。

時期ごとに、リハ室の風景を変えて、季節感を少しでも多く取り入れ、患者様との話題を増やし、笑顔を引き出していけるよう、スタッフ一同がんばっています。



[20号側にある中庭]

いかがでしょうか？恵信甲府病院の事を、皆様に少しでも知っていただく事ができたら光栄です。今後もリハビリスタッフ一同、患者様の笑顔を引き出せるよう努力していきますので、よろしくお願い致します。



『第4回山梨県作業療法学会』に向けての活動報告

第4回山梨県作業療法学会 企画局長

甲府城南病院 宇野正顕

先日、県立大学池田キャンパスにて来春に行われる第4回山梨県作業療法学会の会場下見に行ってきました。第1回はベルクラシック甲府、第2回・3回は山梨市民会館で開催しました山梨県作業療法学会も、第4回を迎えこんなに大きな教育施設で開催できることに身が引き締まる思いでした。

今回会場が県立大学池田キャンパスに移行した背景として、学会参加者の増加が挙げられます。第1回学会では約200名だった参加者も回数を重ねるごとに増加していき、第3回では約300名もの参加者を数えるほどになり、それに伴い一般演題数の増加や機器展示の充実など、学会としても盛況さを増してきています。言い換えれば、それは県内の作業療法士の会員の皆さんが、学会に何かを求め、何かを期待してくれている証ではないかと思えます。それは繋がりであるのかもしれませんが。学びであるのかもしれませんが。発見のかもしれないし、再出発であるのかもしれませんが。きっとひとりひとり想いは違うでしょうが、何らかの想いをもって学会に足を運んでいただく以上、少しでもその想いに応えられる何かに出会える学会でありたいと考えています。

そして会場移行のもう一つの背景として、第4回山梨県作業療法学会が山梨県作業療法士会30周年の記念式典と並行して開催されることにあります。作業療法という言葉すら知られていなかった30年前、先人たちの小さな一歩の踏み出しからはじまった作業療法の歩みは、多くの人々がその跡をたどることで道となり、それは今自分たちが歩んでいる確かな流れとなっています。30年間歩んできた方も、まだ一歩を踏み出したばかりの方も、今学会と一緒にその足跡をたどることで、作業療法士としての自分たちのルーツを見つめ直す機会となり、それが更に広がりを見せ多くの人々が出会う場になればと考えています。

新しい会場での学会開催に向けて、学会運営部では着々と準備を進めています。県内各地から足を運んで頂く会員の皆さんの想いに応えられる学会となるよう、全体で意見を交わし、イメージを膨らませ、少しずつですが形作っています。今後は全体部会と並行して各局部会でそれぞれの活動を展開し、学会の内容の充実化を図っていく段階に入っていきますが、学会運営部員一丸となって『学会に来てみて良かった』と言ってもらえるよう想いをひとつにして頑張っていきます。

第4回山梨県作業療法学会

学会日程：平成22年4月25日（日）

学会テーマ：『出会い～30年の歴史と明日への歩み～』

学会会場：山梨県立大学池田キャンパス

〒400-0062 山梨県甲府市池田 1-6-1

山梨県作業療法士会 法人化に向けてのおはなし(前編)

法人化準備委員会 担当理事 磯野 弘司

1. はじめに

今回から 2 回に分けて、山梨県作業療法士会(以下県士会)の法人化へ向けての取り組みとして、会員の皆さんに法人化について説明させていただきたいと思います。現在県士会では法人化へ向けての準備を進めていますが、一言で法人化と言っても会員の皆さんにはピンとこない部分も多いでしょう。「法人で何?」「法人化することって意味があるの?」そんな皆さんの声に少しでもお応えできるように複雑な法人制度を可能な限り簡単にご説明させてもらえればと思いますので、よろしくお願い致します。

2. 法人とは?

法人は、集団や財産に対して人と同じような法律上の権利を提供されたものを指します。つまり財産管理、契約、訴訟などを団体として行うことができるようになります。今の県士会の口座が個人名になっているのは法人格がないためなのです。



3. 法人の種類

法人にはたくさんの種類がありますが今回県士会が取得を目指している法人は「**一般社団法人**」と呼ばれるものです。この法人は昨年の12月から施行された新しい法律に乗っ取ったもので取得が比較的容易です。そのほかにもNPO法人といったものも聞いたことがあるかもしれませんが、会員を作業療法士に限定するためには現在のところ非営利法人としては一般社団法人の選択が最も適切と思われます。一般社団法人は、その公益性が認定されると公益社団法人を取得することができます。公益社団法人は公益性を認められた団体のみが取得可能で、取得も困難ですが社会的な信頼性が高いです。

4. なぜ法人化する必要があるのか?

会員の皆さんの中には「こんな小さな団体が法人化する必要があるのか?」とか「会計とか面倒になるからしないほうがいいんじゃないの?」といった考えの方もいらっしゃると思います。しかし今回、一般社団法人に関する法律が整備された背景には国の政策の流れがあります。一番は**団体活動の透明性を高める**ということです。今までは法人格取得のハードルが高いこともあり、任意団体は活動が見えづらい状態にありました。そこで国は団体としての法人格を認めて権利を保証する代わりに、団体に対して納税などの義務に対しても厳密な適用を求めてきています。つまり法人格を取得しないと、**権利は認められないまま義務だけが課せられる**という状態になってしまうのです。

5. 法人化のメリットとデメリット

メリットとしては、団体としての人格が認められることで、様々な経済活動を団体で行うことができます。口座の名義を団体名で取得したり、賃貸契約等も行うことができます。また団体活動でのトラブルに対しても、団体として対処できるため個人責任の有限化が可能です。デメリットとしては、やはり事務処理が煩雑になり、会計等に関しては専門家の力を借りる必要も出できます。しかしこれは団体としての義務を果たすうえでは必要なことではないでしょうか?

～次回は法人取得までの流れについて解説したいと思います。～

老健だより

介護老人保健施設 勝沼ナーシングセンター
宮下 隆之

今回の老健だよりは、甲州市勝沼町にあります勝沼ナーシングセンター（以下、当施設）を紹介いたします。

当施設は、介護老人保健施設として平成 14 年 4 月に開所されました。ご存じの通り、勝沼町は全国でも有数のワイン産地であり、当施設も周囲をぶどう畑に囲まれています。また、丘陵地の高台に位置し、遠く甲府市の町並みまで臨める展望窓は、当施設の自慢です。大きな窓から自然の光をふんだんに採り入れることで、屋内は常に明るい雰囲気になっています。



大展望窓



眼下に広がる眺望

施設の規模は長期入所の定員が 90 名、通所リハビリテーションの定員が 20 名（一日）です。他にグループホームやショートステイも併設されています。リハビリテーション部は作業療法士、理学療法士からなり、利用者様の健康や笑顔を支えるべく努力しております。



明るい屋内



機能訓練室

私たちが目指しているのは地域に根差した運営です。施設を利用されるのは地元の方がほとんどです。また、施設に地域の児童やサークルを招き、温かい交流の場を設けています。先日も地域の方の協力で、打ち上げ花火を見せていただきました。利用者様は「目の前で花火が見られるなんて!!」と感激しておられました。地域住民の方々のご理解とご協力の上に、運営が成り立っていると実感しています。



勝沼ナーシングセンター

自然に囲まれた環境にあるとはいえ、施設内での生活は単調な繰り返しになりがちです。そこで、当施設では季節の移り変わりを感じてもらうため、年間行事に力を入れています。夏祭りでは屋台やおみこし、クリスマス会ではハンドベル演奏と、職員が利用者様に楽しんでもらえるようなイベントを企画します。9月15日には敬老会が催されました。メインイベントは各部署のスタッフが協力して取り組んだ演劇、「水戸黄門」です。役者には介護スタッフを中心にリハビリスタッフ、看護師、事務部と多彩なメンバーが集まりました。台本だけでなく刀やかつらなどの演劇で使う道具も手作りです。利用者様も職員のいつもとは違った表情に、大歓声を上げておられました。中でも看護部長と管理部長が演じた悪代官が悪事を企むシーンでは、年季の入った2人の芝居に参加した職員まで大笑いしていました。ちなみに私は助さん役です。セリフは3箇所だけでしたが、とても緊張しました。

私は今年の4月に、系列病院から出向してきました。ようやく少しずつ慣れてきたところで感じるのは、職員の少なさです。これは今では利点でもあると考えています。職員の絶対数が少ないため、同じスタッフと顔を合わせる機会が多いです。必然的にコミュニケーションが取りやすくなり、チームでのアプローチがしやすくなります。個人の負担は大きいですが、職員の数が少ないからこそ、職種の垣根を越えて助け合い、より良いサービスを提供しようという思いを強く感じます。これからも利用者様の生活が豊かになるように、私自身楽しんで仕事に奮闘したいと思います。

「脳のリハビリテーション」

Carlo Perfetti 著

小池 美納 訳

協同医書出版

4000円



「脳の損傷なんだから、もっと脳の勉強をしたほうが良いのかな？でも、中枢神経系の教科書に書かれていることをどうやって日常のリハビリテーションに活かせばいいんだろう……」「高次脳機能障害のリハビリテーションには、できない事をさせるのではなく原因に対して介入していく方法ってないの？」「なんで発症部位は殆ど変わらないのに、患者さんによってこんなにも予後に違いが出てくるんだろう……」中枢神経疾患の患者さんを受け持つセラピストにとって、このような疑問や悩みを持つセラピストは多いのではないのでしょうか？私自身こういった疑問や悩みは常にありましたが、具体的にどうすればいいのか解らず、とりあえず色々な参考書や文献に助けを求めるといった日々でした。現在もはっきりとした答えが見つかったわけではありませんが、今回紹介させて頂く「脳のリハビリテーション」は、私に脳をひとつのシステムとして捉えること、患者さんが感じている世界を知ることの必要性といった新しい視点を与えてくれた一冊です。本書は、イタリアの神経生理学者 Carlo Perfetti 氏らが、中枢神経疾患患者に対し行った 1990 年代半ばから 2000 年にかけてのリハビリテーションの取り組みがまとめられています。本書は 3 部に分かれており、第 I 部では運動イメージをテーマにし、運動を起こす前には脳内ではどのようなシステムが働き運動指令を構築していくのかが詳細に説明されています。第 II 部は、失行がテーマとして取り上げられています。従来の観念失行、観念運動失行、肢節運動失行、着衣失行といった分類ではなく、「読解システム」と「産生システム」の解離という新しい視点で失行が解釈されています。さらに、新たな解釈を基にして、それぞれの症状のレベルに合わせたリハビリテーションの実施方法が細かくまとめられています。第 III 部では小脳疾患をテーマに、小脳を「運動の調整役」としてではなく「認知機能を備えた器官」として捉え、小脳ではどのようなものを認知し処理されているのか、また、小脳と学習の関係などが詳しく説明されています。そして、失調症状の原因に対して新たな仮説を立て、逸れに対する具体的なリハビリテーションの方策が詳しくまとめられています。

本書を教科書や技術書として読むのではなく、新たなものを得ようとする人たちの試みが書かれた本として読んで頂くと、運動と中枢神経系との関係性や高次脳機能障害に対しての新たな視点を発見するきっかけになるのではないかと思います。興味のある方は是非ご一読ください。

一宮温泉病院 角田 幸一

理事会だより

平成21年度6月期 山梨県作業療法士会理事会

日時：平成21年6月25日（木）

会場：山梨川俣庁病院 作業療法室

出席者：山本、川崎、廣田、中村、三瀬、
飯野、磯野、山田、松田、黒崎、
工藤、古屋；計12名

1、会長（山本）

平成21年6月19日（金）に開催された日本作業療法士協会・総会にて、新理事体制となった。

会長：中村 春基氏

副会長：山根 寛氏・岩瀬 義昭氏

2、副会長（川崎・廣田）

1) 都道府県作業療法士連絡協議会総会に、廣田副会長が出席。

2) 山梨県医療社会事業協会40周年記念公演に、川崎副会長が出席。

3、事務局（三瀬）

1) 第1回中北地域川俣庁連絡会に、三瀬事務局長が出席。

2) 日本作業療法士協会より、2008年度都道府県士会現況調査結果を受託。

3) 山梨県理学療法士会より、事務局移転（甲府城南病院）のお知らせを受託。

<管理部>

会員管理に伴う書類を各施設に発送。7月に各施設に会員名簿を発送予定。

名簿に関しては、月1回更新しホームページにアップしていく予定。

4、広報局（飯野）

平成21年6月18日（金）に、第71号広報誌構成会議を開催。7月に発送予定。

5、臨時委員会（磯野）

<災害対策準備委員会>

日本作業療法学会にて、新潟県作業療法士会の災

害対策に関する報告会に三瀬事務局長が参加。

平成21年度7月期 山梨県作業療法士会理事会

日時：平成21年7月21日（火）

会場：山梨川俣庁病院 作業療法室

出席者：山本、川崎、廣田、中村、佐田、三瀬、飯野、磯野、山田、松田、黒崎、工藤、古屋；計13名

1、事務局（三瀬）

日本作業療法士協会より、合同役職者研修会のお知らせを受託。磯野理事・飯野理事が参加予定。

2、広報局（飯野）

第71号広報誌を6月18日（木）に発送。

3、学術局（松田・黒崎・工藤）

<企画研修部>

平成21年7月3日（金）

第1回学術研修会を開催。

会場：帝京医療福祉専門学校。

テーマ：「個と集団」

講師：松井 紀和先生

参加者：133名

<生涯教育部>

平成21年8月30日（日）に、第1回研修会開催予定。

会場：健康科学大学

講師：廣田 真由美氏（石和温泉病院）

大島 隆一郎氏（健康科学大学）

平成21年度8月期 山梨県作業療法士会理事会

日時：平成21年8月31日（月）

会場：山梨川俣庁病院 作業療法室

出席者：山本、川崎、廣田、中村、三瀬、磯野、山田、松田、黒崎、工藤、古屋；計11名

1、会長（山本）

県士会内においても、新型インフルエンザの流行がみられてきたため、対策を検討中。

2、副会長（川崎・廣田）

平成21年9月26日（土）研修会開催予定。

テーマ：「認知機能障害と就労支援」

講師：中谷 真樹先生（住吉病院 院長）

3、事務局（三瀬）

新型インフルエンザへの対策について。

今後、開催予定の研修会案内文等に安全対策を促す一文を記載していく（マスクの着用など）。

4、事業局（山田）

<保険医療福祉部>

1)平成21年9月4日（金）から、山交百貨店にて「障害者文化展」が開催される。

2)平成21年11月19日（木） 地域リハビリテーション
従事者研修会を開催予定。

テーマ：OTの職域紹介等

講師：久保田 好正氏（甲州リハビリテーション病院）

3)平成21年11月11日（水）、11月24日（火）、12月7日（月）にホームヘルパー1級の研修会を開催。

講師：山田 稔氏（富士温泉病院）

アシスタント：諏訪 葵氏（富士温泉病院）

5、学術局（松田・黒崎・工藤）

<企画研修部>

1)平成21年8月12日（水）、平成21年8月26日（水）に第2回・3回学術研修会開催。

テーマ：「地域に出ていく OT

～訪問リハの事例から学ぶ～」

講師：伊藤 貴子氏（健康科学大学）

参加者：第2回 147名、

第3回 144名

2)平成21年11月18日（水）第4回学術研修会開催予定。

テーマ：「発達につまづきのある子供たちへのかかわりについて～山梨県における小児OTの歴史と現状～」

<生涯教育部>

1)平成21年8月30日（日）に、第1回現職者共通研修を開催。

テーマ①：「作業療法生涯教育概論」

講師：廣田 真由美氏（石和温泉病院）

参加者：54名

テーマ②：「保険・医療・福祉と地域支援」

講師：大島 隆一郎氏（健康科学大学）

参加者：52名

2)平成21年9月9日（水）に、第2回現職者共通研修を開催予定。

テーマ：「作業療法における協業・後輩育成」

講師：坂井 一也氏（健康科学大学）

3)平成21年9月25日（月）に、第3回現職者共通研修開催予定。

テーマ：「職業倫理」

講師：古屋 豊美氏（山梨厚生病院）

4)平成21年10月18日（日）に、第4回現職者共通研修を開催予定。

テーマ：「エビデンスと作業療法実践」

講師：渡辺 邦夫氏（帝京医療福祉専門学校）

小菅 久美子先生（笛吹中央病院）

6、特設委員会（磯野）

<地域リハビリテーション委員会>

1)平成21年8月28日（金）に、地域リハビリテーションフォーラムを開催。参加者

わたしたちは人生を毎日楽しんでいただけるよう **3Life** をサポートいたします。

Life①生命

「痛い」「熱い」など、生物としての感覚レベルでの適合

お客さまひとりひとりの身体の形・機能に合った製品を心をこめて選び、作り、お渡しています。

Life②生活

「食事」「睡眠」「移動」など、人間としての日常生活レベルでの適合

さまざまな提案をすることにより、生活シーンごとに生じる問題を解決し、より快適な暮らしが出来るようお手伝いをしています。

Life③人生

「就職」「社会的活動」「レジャー」など、個人としての自己実現レベルでの適合

仕事や趣味・スポーツなど色々なことにトライし、自分らしさを求めるお客さまを深い経験と高い技術力でサポートしています。

義肢装具



車いす



ゲイトソリューションデザイン



PPSスイッチ



コミュニケーション機器



マイスプーン



川村義肢株式会社 山梨営業所 〒406-0024 山梨県笛吹市石和町川中島188
 TEL 055 (262) 9630 FAX 055 (262) 0787

医療科学部 作業療法学科
 新しいコラボレーションに挑戦!!!



医療科学部

作業療法学科 (40名)
理学療法学科・柔道整復学科



こども学部

こども学科



生命環境学部

アニマルサイエンス学科
生命科学科・環境科学科



こども学部

こども学科

いのちをまなぶキャンパス
帝京科学大学

JR 八王子～上野原/27分 新宿～上野原/1時間15分 横浜～八王子～上野原1時間35分
 〒409-0193 上野原市八ツ沢2525 TEL 0554-63-4411/FAX 0554-63-4430 www.ntu.ac.jp

富士山をあおいで
医療・福祉・心理を学ぼう

健康科学部 理学療法学科 作業療法学科 福祉心理学科



健康科学大学

Health Science University

交通案内 富士急行線河口湖駅よりスクールバスにて10分
〒401-0380 山梨県南都留郡富士河口湖町小立 7187

お問合せ 0555-83-5240 (随時録音センター直通)
URL <http://www.kenkoudai.ac.jp>

ノラクソン筋電計シリーズ SAKAIMed

簡単操作で
バイオフィードバック
トレーニング



酒井医療株式会社
関東支店
Tel: 048-255-0451
www.sakaimed.co.jp

携帯型筋電図計測装置 マイオトレス400

介護用品/福祉用具販売 住宅改修 車椅子オーダーメイド
介護保険レンタル 居宅支援事業

安心をお届けしたい……

株 サシカイゴ

玉穂店 中央市若宮13-4 TEL: 055-274-1152
シルバー店 甲府市富士見1丁目3-32 TEL: 055-251-1121

やさしさ・おもいやり…
有限会社 **グットケア**

当社は、在宅福祉を支援する会社です。
下記事業所にて、お気軽にご相談ください。



◎住吉・訪問介護・居宅支援 ☎055-236-6006
(本部)・福祉用具貸与・販売 住宅改修
○朝気・デイサービス「笑くぼ」☎055-236-6336
○東光寺・訪問介護 ☎055-236-6556
・デイサービス「よつ葉」(055-236-6344)



山梨県作業療法士会 各種申請書について

- 入会申請書
- 退会届
- 登録変更届
- 休会・復会届

上記の各申請書を山梨県作業療法士会ホームページからダウンロードして頂き、下記まで、郵送又はFAXにてご連絡ください。もしくは直接、下記連絡先までご連絡頂きますようお願い申し上げます。

連絡・郵送先

山梨県作業療法士会 事務局 管理部

〒400-0831 山梨県甲府市上町 753-1

甲府城南病院 リハビリテーション部内

FAX: 055-241-8660 (代) TEL: 055-241-5811 (代)



編集後記

カレンダーも薄くなり、朝・晩の寒さに耐えられず既にコタツ虫……。今年の秋もスポーツより読書より睡眠&食欲の秋になりそうです。(み)

今年、初めて挑戦した梅酒を飲んでみました。なかなか美味しかったです。40たんまりあるので飲みたい方はこちらまで(な)

6月にOTとして、今年の広報誌で部員として復帰しました！元気はつつママOTを目指して頑張ります(河)

乱れた食生活を整えて約半年。ようやく効果が出てきて自己満足です。(ふ)

買い食いがたり、食欲の秋！！を前にして、お腹が出てきました…。27歳。秋。順調な経過はたどりたくないです！！(ない)

最近、素直に感動することを忘れて、平静を装う自分がいる。昔は違ったような気がする。秋、冬は小さいことから感動したいな。

(米)

まだ秋なのにすでに暖房のお世話に。また今年も引きこもりの季節がやってきました。今年も引きこもりながら何をしようかな？

(つ)

自宅のテレビが壊れました…。そろそろ地デジかなあ…。(い)

発行人：山本 伸一

編集人：飯野 知一・勝俣 奈央子・三枝 美和・小澤 有香・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・米山 敦・河野 香

発行所：山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

山梨厚生病院 〒405-0033 山梨県山梨市落合 860 TEL 0553-23-1311 FAX 0553-23-0168

印刷所：エンドレス(株) 〒405-0014 山梨県山梨市上石森 123 TEL 0553-22-4574